



2020. 2. 14

ひなご幼稚園園長 神戸洋美

### 創作意欲を高める

8日の作品展には、ご家族揃ってお出かけくださりましてありがとうございました。各クラスの個性あふれた作品をご覧いただけたことと思います。実は今年の作品展は例年と違って、更に進化しましたが、お気づきになって頂けたでしょうか。

作品展も幼稚園の歩みと共に変化してきました。私がひなご幼稚園に戻った頃、その頃の作品作りは紙粘土の花瓶や卵の殻でのモザイク画など、保護者様からの観る側中心に制作していました。当然、細かい作業が多く手先の器用さが問われるなど、子どもたちにとっ

て作品作りは楽しかったかどうか、と首をかしげるような制作活動だったのです。それに加えて各クラスで部屋の中心に置く共同制作もあり、作品数の多さに悲鳴を上げていた時もありました。

そこで作品展とは誰のためにあるべきか？という原点に返って考え直すことにしたのです。大人のように背伸びして作る作品ではなく、子どもたちの発達能力にあった作品作り、何より「楽しい」と思えるような創作意欲を高める作品展にしようと根本から見直すことにしました。その時から廃品利用に切り替え、全員同じものではなく、一人ひとりの個性を表現し、作る側の視点からの作品作りになりました。

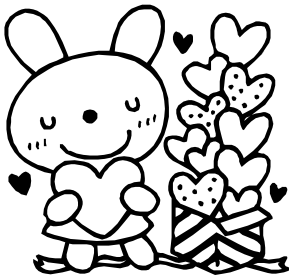
一言で表現すれば「遊び心があるもの」です。ただ飾っておくものではなく、子どもたちが毎日作っていて楽しい物、ちょっとした仕掛けがあるものなどに方向転換したのです。子どもたちに過度のふたんがないように、日常の保育に支障がないようにと作品の数も見直し、毎年試行錯誤や反省を繰り返し、今日の形が出来上がりました。

そして今年は更に進化して、学年共通でのテーマを統一し材料や創作方法を工夫しました。「創作意欲を高める」と言っても、「自由に作ってみましょう。」と子どもたちに任せておくだけでは作品は出来ません。まず廃品を使ってどんなことができるか、あらゆる方法を知らせていく導入をし、子どもたちが作っていく過程で助言をします。あまり口出しし過ぎると担任色が強くなってしまいますから、この距離感を保ちながら作品完成に向かって、毎日コツコツと積み上げていくのです。そして作品展当日を迎えました。

3階での「親子でアート」の制作も大盛況で、ご家族皆様のご協力に心より感謝申し上げます。お子さんの作品がご家庭に届いたら、制作過程の苦労話を聞いてあげてくださいね。



### 心が折れなければ夢はつかめる



私は「春日井さくらライオンズクラブ」に所属し、ボランティア団体の一人として参加しています。「福祉のつどい」のお手伝いをしたり介助犬啓発活動に携わったり（行事は日曜日開催）して、女性ばかりで賑やかに活動しています。

去る9日（日）に春日井市民会館においてチャリティ事業が行われ、「心が折れなければ夢はつかめる」と題して、義足のプロダンサー大前光市氏のトーク&ダンスパフォーマンスが開催されました。

大前氏はダンサーを夢見て頑張っていた矢先、事故で片足を失くし絶望のどん底に沈んでしまいます。そこからどのように立ち上がり、プロダンサーとして素晴らしい活躍ができるまでに至ったのかを、映像と語りとダンスを融合させて、観客の皆様へ訴えました。

事故の後、大前氏は義足をつけて健常のダンサーに復帰したいと頑張りましたが限界を感じ、逆の発想で義足ははずして踊ったところ、周りの人から「それがカッコいい」と評価を受け、そこから自分を受け入れ自分にしか出来ないパフォーマンスで成功を収めたそうです。リオパラリンピック閉会式で素晴らしいパフォーマンスを披露され、現在の活躍につながっています。会場全体が感動で盛り上がりました。

「心が折れなければ夢はつかめる」これを今月のヒントといたします。